

くらよし

January
2010

1

平成22年1月号

No.1379

まちづくりキャッチフレーズ **人と自然と文化がつくる「キラリと光る新中核都市」**



福来る
笑う門には

CONTENTS

- 新春に寄せて 2
- 平成21年倉吉市政主要ニュース .. 3
- 仏師 山本竜門の挑戦 4~5
- 「定住自立圏構想」協定書(案)
にご意見を 6~7
- キラ☆リ「特別編」 8
- ハート・バリアフリー 9
- インフォメーション
・ プラス 10~13
- インフォメーション 14~17
- あんしんファイル
/ 介護予防 18~19
- 出かけてみよう 20~21
- まちかどピンナップ 22
- シナプロ韓国 / 生涯学習 23
- 若者の定住化に向けて / 人口 24

「**よろこぞ恵比寿**」(山本竜門^{りゅうもん}作 / 倉吉観光案内所に設置)

※山本竜門さんの記事は、4~5頁に掲載しています。

新年を迎え、市民の皆さまのご多幸を祈念するとともに、倉吉市がさらなる飛躍の年とするために、将来都市像である「人と自然と文化がつくる」キラリと光る新中核都市の実現に向け、市民の皆さまと共にさまざまな取り組みを展開してまいります。

第10次倉吉市総合計画に重点課題として位置づけた「若者の定住化促進」については、本市の将来を担う若者にとつて住みやすく、かつ、魅力あるまちづくりを進めることで定

住を促進するもので、この事業展開にあたって、本市に帰りたいという気持ちのある若者に向けた地元企業の就職情報提供や、定住を希望している若者に対する結婚を意識した出会いの機会提供、住宅の情報提供や取得への支援など、若者が抱く不安を解消し、本市へ帰っていたり、きつかけ

づくりを進めてまいります。一方で、未だ続く地域経済の閉塞感を打開するために、倉吉市くらしよし産業元気条例に基づく「倉吉地域産業振

興ビジョン」の策定による産業振興策の展開を図り、産学金官連携、異業種間交流、農工商連携による新たな産業づくりによって、商工業の振興さらには雇用の維持と確保にも積極的な取り組みを行ってまいります。

同時に、地域の主産業である地域農業の維持・発展のための担い手育成、農業経営体の確保・育成、地元生産品の販売促進、加工品の開発などによる農業所得向上など、課題の解決によってより地域色

豊かな農業の推進を図ってまいります。

さらに、本市においても少子高齢化が進む中、まず高齢者の健康維持を図り、社会参加する機会を提供することで、地域において自立して生活していたいたくための施策展開を考え、高齢者が地域において生きがいを感じ、安心して地域で暮らし続けていただける取り組みを推進します。

このような中、昨年行われた小学生定屋サミットが開催されて以降、ふるさと倉吉を

担う子どもたちが、自らの手でまちづくりに貢献しよう

と「菜の花プロジェクト」が進められています。夢と希望にあふれたこの取り組みによって、打吹公園が桜の花で満開になるころには、天神川河川敷や、通学路が見事な黄色のじゅうたんで彩られることになり、豊かな心と、たくましく生きる力をもつ子どもたちの育成とともに、あらゆる世代の豊かな心を育む環境づくり推進に尽くしていきたいと考えております。



倉吉市長 長谷川 稔
倉吉市議会議長 福井 康夫

新政権発足後の期待と不安の中で

新年明けましておめでとうございます。

市民の皆さまには、ご家族おそろいで、お元気に希望に満ちた新年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

旧年はまさしく、波乱万丈の一年。世界経済の同時不況から脱却もいまだ遠く、政治の世界も試行錯誤を経て、一日も早い成長戦略の成果を期待するところであります。

本市におきましても、倉吉市議会議員選挙・市長選挙と続きましたが、新陣容も確立し、市民生活本位の市政の実現が、何よりも大切だと実感しています。

今、市政の重要課題として、新斎場建設や都市計画税の見直し、少子化対策と若者定住など急務の課題に直面しています。

合併から5年を迎え、今年はいよいよ定住自立圏構想の具体化に取り組むこととなります。

今日の難局を創意と勇氣と熱意をもって臨み、鳥取県中部地域の発展に向けて地域資源の活用をさらに図っていきたいと思います。

さらなる人材育成と地域資源の活用に期待

昨年は、市議会議員提出議案として「倉吉市くらしよし産業元気条例」を条例化し、地域産業の振興に取り組み、地域の経済的自立度を高めるため、倉吉市地域産業振興戦略会議を設置すること

としました。

また、郷土を題材にして谷口ジローさんに続き、倉吉弁丸出しで描いた小説「どがでもバンドやらいでか」の丁田

政二郎さん(東京都新宿区在住)には地元倉吉市出身者であり、商工従業員激励大会で講演をいただきましたが、こうして地元出身者の方々の活躍を支援する体制ができることを願っています。

21世紀を見据えた市政の座標軸を

これからは、環境政策を基軸とした産業政策へと舵が大きくきられようとしています。

農・商・工・官一体となつて連携をより強める中で、個別課題について制度設計を図り、倉吉市の地域力を高めていきたいと思ひます。

新年の門出にあたり、皆さまの健康と今年一年のご多幸を心よりお祈り申し上げ、年頭のごあいさついたします。

飛龍閣改修工事



新設されたスロープ(飛龍閣)

明治40年5月17日に大正天皇が皇太子の時に宿泊され、「とつとりの建物100選」に選ばれている飛龍閣の屋根の葺き替え、トイレ改修、スロープの設置(バリアフリー化)工事が行われ、10月に完成しました。

倉吉市小・中学生淀屋サミットから「菜の花プロジェクト」へ



種まきの様子(天神川)

7月に行われた、市内小中学校の代表によるリーダー会議から始まった「菜の花の種まき」。地区公民館の協力を得て、地域の皆さんと市内全小中学生が一緒になり、10月～11月にかけて天神川(小鴨川)の河川敷を中心に種まきを実施しました。

定住自立圏構想に係る先行実施団体の決定および中心市宣言の実施

1月22日(木)に総務省から「定住自立圏構想」に係る先行実施団体の決定を受け、3月9日(月)に中心市宣言を行いました。

定額給付金・子育て応援特別手当給付事業を実施



国補助による定額給付金と子育て応援特別手当の給付を3月16日(月)に県内4市のトップを切って実施しました。

新型インフルエンザワクチン接種費用一部助成を実施



予防接種の様子

鳥取県内では夏ごろから流行し、市内においても小中学校などへ、大きな影響を与えている新型インフルエンザの発症・重症化の防止に向け、ワクチン接種費用の一部助成を11月2日(月)から開始しました。

助成金は、1回1,500円。優先接種対象者ごとに定められた回数のうち、1人2回まで助成し、中部の医療機関以外での接種も助成対象になります。また、生活保護世帯の人には自己負担分も還付します。

倉吉駅橋上化工事始まる 仮駅舎開業へ



倉吉駅周辺の様子

11月7日(土)、JR倉吉駅を午前5時25分発、鳥取駅始発の山陰本線(下り)出雲市駅終着の普通列車から、仮駅舎に業務が切り代わりました。平成23年1月の新駅開業に向けて、倉吉駅橋上化事業が本格的に始まりました。

2009年 倉吉市政 主要ニュース

トキめき新潟国体陸上競技でジュニア選手がめざましい活躍



柏村選手(左)と萩原選手(右)

10月に新潟市で開催された国体陸上競技において、柏村亮太さん(倉吉北高)は、少年男子A・ハンマー投げで日本ジュニア新、高校新、大会新で見事優勝。そして、萩原くららさん(河北中)は、少年少女共通・走り高跳びで高校生に混じって堂々の第2位と素晴らしい成績を収めました。

倉吉市議会議員選挙・倉吉市長選挙

市議会議員の任期満了に伴う一般選挙が10月4日(日)に行われました。即日投開票の結果、女性議員2人を含む20人の議員が当選しました。また、市長辞職に伴う市長選挙が11月1日(日)に行われ、長谷川市長が再当選しました。

道路整備による利便性の向上



立体交差化(小田橋西詰)



4車線化(跨線橋)

3月に小田橋西詰のJR山陰線と県道の立体交差化、および9月に国道179号跨線橋周辺の4車線化が完成。これにより、踏切事故の防止、慢性的な交通渋滞の解消、拡幅された歩道スペースによる歩行者の安全が確保されました。

第31回全国伝統的建造物群保存地区協議会総会・研修会倉吉大会開催



視察の様子(倉吉淀屋)

全国伝統的建造物群保存地区協議会総会・協議会が5月に倉吉で開催されました。全国各地の伝建地区保存会住民による意見交換会なども開催され、参加者数は54市町村、29住民団体で合計219人でした。

今、日本全国、福の神だらけ。

仏師



山本竜門

の

福の神に会える街へ

挑戦



集仏庵にて

でも、倉吉だけは福の神でいっぱいになりたい。

山本 竜門

仏師。工房と庵のある「集仏庵」(余戸谷町水道山)※2で制作活動に励む。庵には、不動明王・慈母観音などの本格的なものから、布袋様、大黒様などの「福の神」、小さな木片に彫った仏像など約1,000体が安置されている。

木の特徴と、デザイン感覚を生かしたアレンジを得意とする。

倉吉を「福の神に会える街」にしようとする仕掛け人。

<略歴>

昭和15年 倉吉市生まれ

昭和34年 橋本彫刻所(滋賀県米原市)に入所

昭和49年~58年 京都の大仏師 松久朋琳・宗琳父子の弟子となる。

昭和60年 集仏庵建立

平成13年~ 福神展

平成21年 倉吉三仏師展
NHKの全国放送、海外向け放送などで紹介される。

自分がその気になれば、どんな道にも入れる。

「まず、仏師になつたきつかけを教えてください。」

もともと手仕事に興味を持っていましたが、高校を卒業したら、公務員になろうと思つて、東京に試験を受けに行きました。で、その帰りに、当時、木彫りが盛んだった滋賀県米原市の村に立ち寄つたんです。そこで焼杉彫刻に出会って、「自分がやりたいのはこれだ」と直感しました。その場で、就職を決めてしまいました(笑)

「ずいぶん思い切りのよい青年だったんですね。」

最初は、家族も反対しましたけど、最後には、しばらくやって、自分が考えていた世界と違っていたら、公務員になると約束して説得しました。

そこで気づいたのは、「物事なんて、自分がその気になれば、どんな道にも入れるものだ」ということ。

白壁土蔵群一帯で、木彫りの福の神と出会ったことはありませんか?ユニークで親しみのあるこれらは、倉吉を「福の神に会える街」にしようと、市内在住の仏師(山本竜門・仲倉裕朋・小谷和上の3仏師)や、市街地の活性化をめざす「あきない中心倉」の協力のもと、この地へやって来ました。今回は、山本さんに、「福の神」への思いを伺いました。

まあ、その道は自分に合っていて、結局そこで10年ほど、焼杉彫刻の修行をしました。

「その後、京都で大仏師に弟子入りされたんですね。」

そのころ、高校時代の恩師が亡くなって、「仏像が彫りたい」と思つたんですが、思うように彫ることができなくて。そうしたら、ちょうど、日本一の大仏師が「仏像を彫りたい人間がいたら、だれでも教えてやる」とおっしゃられたのをテレビで見て、訪ねて行きました。そこで仏像を見たときに、「ああ、これだ。ここで勉強せんといかん」とひらめいたんです。そこで、京都でも通用する仏師になろうと、9年間修行しました。

「京都で仏師になろうとは、思われませんでしたか。」

思わなかったですね。ぼくは、弟子を使わず気ままにやりたかったですし、京都では、「人が衣のしわを1本入れれば、自分分は2本入れてやる」というよ

※1 11月27日(金)に、市立図書館へ寄贈された福の神

※2 集仏庵は、見学無料(要予約: ☎22-8675)

※「福の神に会える街」に関する問合せ先: 商工観光課(☎22-8158 / ☎22-8136)



集仏庵 造仏所にて。まるで仏像たちが、制作活動に打ち込む山本さんを見守っているかのよう。

うな細かな技術まで競争するんです。それがいやでした。京都のせかせかせかした生活も落ち着きませんでしたし。

倉吉に帰ってからは、仏像の作製依頼を受けるだけでなく、自分の思うままに仏像を造っていたので、それを収蔵する場所が必要になってきました。そこで仏像展を開催したり、周囲の皆さんのご厚意でできたのが、この集仏庵です。ここは、多くの仏像を真剣に見ていただけ場所です。

どこに行っても福の神の笑顔がある街に。

「福の神に会える街」の取り組みのきっかけは。

ことの起こりは赤瓦のオープンです。最初に、景気づけにと布袋様(左写真①)を赤瓦2

号館に設置しました。

赤瓦がオープンすると、白壁土蔵群一帯への観光客は一気に増えました。しかし、見ていると、その滞在時間は、せいぜい30分程度で、周辺をぐるっと歩いて、赤瓦でちよつと土産を買っただけ。これだけではいかなかったらと思いました。

それなら、自分に何ができるだろうと考えたら、やっぱり彫ることしかない。彫るなら自由なスタイルの福の神がいいだろうと思に至りました。人が旅に出るのは、そこで何かいいこと、心が満足するようなことに会いたいからでしょう。倉吉には縁起のいい福の神がたくさんおられて、それに囲まれて幸せな気分になってもらえたらいいだろうと思っただけです。手始めに、福神展(福の神の



1



3

2

▲白壁土蔵群周辺の福の神。

- ①布袋様(赤瓦二号館)は、一番大きくて、一番最初にやってきた福の神。笑顔にいやされます。
- ②福祿寿様(赤瓦七号館・元帥酒造)は、古いまち並みの中、行き交う人を毎日見守っています。
- ③福狸(高田酒造)は、磨くとご利益がある!? たわしで、磨いて、磨いて!

仏像展)を始めて、そこから、あきない中心倉やほかの仏師の賛同も得て、周辺の店舗などにも置くようになりました。今では、40体以上が商店街一帯に置かれています。

最後に、今後の展望を教えてください。

一番人気のある布袋様(左写真①)を売り込んで、活気づけたいですね。このミニチュアを売ったり、イベントで配つたりして、倉吉中を福の神でいっぱいにしてやろうと。観光地だけでなく、市民生活の場にも根付いた、実質的に「福の神がいっぱい」の街。「福の神の笑顔があふれる街」、そういうまちづくりがしたいですね。そうしていくことで、集仏庵の仏像とともに認知され、倉吉が「木彫文化のまち」になればいいですね。

仏像制作に使われる道具。何十種類ものみは、どれもピカピカに手入れされています。制作中は、のみが木を削るリズムカルな音と、さまざまな木の香りだけが部屋を満たします。



集仏庵からの眺め。晴れた日は、大山も望める。

